

応用物理学会関西支部主催
日本真空学会関西支部協賛、日本表面科学会関西支部協賛、日本表面科学会中部支部協賛

顕微表面・界面分析セミナー
平成25年度第2回セミナーのご案内

ご多忙な時期になりました。第2回の顕微表面・界面分析セミナーでは新しい分析法として注目され、これから重要な顕微手段に発展すると思われる二つの講演を企画しました。京都大学大学院の木村健二教授と定年退職を今年度末に迎えられる大阪電通大の越川孝範教授のお二人にお願いして下記のようなセミナーを企画しております。師走のあわただしい時期ですが多数の方々のご参加をお願い申し上げます。

日時 平成25年12月19日(木) 13:00~17:00

場所 株式会社 島津製作所 関西支社 マルチホール
〒530-0012 大阪市北区芝田 1-1-4 、阪急ターミナルビル 14 階
TEL 06-6373-6541、 アクセスマップ URL:

<http://www.shimadzu.co.jp/aboutus/company/access/kansai.html>

プログラム

- 1) はじめに：服部賢先生（奈良先端科学技術大学院大学准教授）
- 2) 「高速フラーレンイオンと物質の相互作用」

木村健二先生（京都大学大学院教授、工学研究科マイクロエンジニアリング専攻）

講演要旨：数 百keV～数MeVのフラーレンイオンを Si_3N_4 薄膜に照射するとイオン1個当たり数千個の原子がスパッタされ、直径数nm長さ20nm程度の密度が大幅に減少した照射痕が形成されることを見出した。照射痕形成のメカニズムとこれを利用したナノ細孔作成の可能性について述べる。また、数MeVのフラーレンイオンを用いた前方放出SIMSの開発についても触れる。

- 3) 「高輝度・高偏極 SPLEEM の開発とスピントロニクス磁性薄膜への応用」

越川孝範先生（大阪電気通信大学教授；エレクトロニクス基礎研究所）

講演要旨；「スピントロニクスに関する研究・開発が盛んに行われている。すでにコンピュータを始め多くの機器にその成果が使用されている。さらなる発展を目指し、現在世界中で研究・開発が進んでいる。磁性薄膜材料はその発展の鍵となっている。

それらの磁性材料特性の解明に欠かせない（超高輝度・高スピン偏極高 分解能低エネルギー電子顕微鏡）の新しい開発の状況とそれを用いて得られた最新の研究成果について紹介する」

3. **懇親会**（忘年会を兼ねたミキサー、¥3,000 程度）

・・・・・・・・・・切り取ってご利用ください・・・・・・・・・・

参加申し込み（12月14日までに）

あて先；奈良先端大、服部 賢 khattori@ms.naist.jp

TF 技研 上田一之 uedakzyk@nifty.com

申込者 ご氏名：

ご所属：

所属学会：

連絡用電子メール：

懇親会；参加する 参加しない

ご意見、ご希望欄